

子どもが自ら考え 学び合う授業実践

～資質・能力の育成に向けた「個別最適な学び」と

「協働的な学び」へのアプローチ～（1年次）

～知的特別支援学校における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の

一体的な充実のための視点を通して～（2年次）



群馬大学共同教育学部附属特別支援学校

〒371-0032 群馬県前橋市若宮町二丁目8番1号

電話：027-231-1384

FAX：027-234-4852

URL：shc.edu.gunma-u.ac.jp

Mail：shc@ml.gunma-u.ac.jp

I 研究主題

◆本校での実践上の課題から

本校ではこれまでの研究で、実態調査表を活用し、個々が学習する内容を明確にした授業づくりに取り組んできたが、授業実践をする中で、以下のような課題が見られた。



それぞれの目標に合わせた教材や支援具を工夫することによって、個々の学びは充実するが、個別学習に偏りがちで子ども同士で学び合う場の設定が難しい



実態差があり、目標が異なる学習集団でどう学び合えるのか。

◆中央教育審議会答申から



個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させていくことで、主体的・対話的で深い学びとなり、資質・能力の育成に繋がっていくことが示された。

出典：令和3年1月 中央教育審議会

資質・能力の育成に向け、知的障害特別支援学校においても個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させたい

研究主題

子どもが自ら考え 学び合う授業実践

(令和4年～令和5年度 2年計画研究)

◆目的

特別支援教育における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について、本校としての考え方を示す。また、それらを授業実践の中で具現化し、授業づくりの際の留意点を明らかにする。



Ⅱ 副主題と取組の概要

※●は個別最適な学び, ●は協働的な学び,
●は一体的な充実に関連する取組

◆資質・能力の育成に向けた 「個別最適な学び」と「協働的な学び」へのアプローチ

- 実態調査表(※図1)を基に各教科等の実態を把握し, 個々の指導内容の設定
- 興味関心や過去に有効だった支援などを基に, 教材教具や支援方法を工夫
- 子どもが協働的に学ぶ姿を想定し, 協働場面に重点をおいた授業実践



- 子どもが協働的に学んでいた姿と, 有効であった手立ての整理(※図2)
- 授業の中で自己選択をしながら, 発展した活動に取り組むことのできる場面設定



◆知的特別支援学校における「個別最適な学び」と 「協働的な学び」の一体的な充実のための視点を通して

- 単元を通して子どもの変容の考察
- 本校としての「個別最適な学び」と「協働的な学び」のポイントの整理(※図3)



- 各教科の指導, 各教科等を合わせた指導の授業づくりの流れの中での, 「個別最適な学び」と「協働的な学び」のポイントや留意点の検討
- 振り返りシート(※図4)を使用し, 実際の子どもの姿を基にした授業改善

1年次

2年次

Ⅲ 1年次の取組と授業実践からの考察

◆資質・能力の育成に向けた「個別最適な学び」と「協働的な学び」へのアプローチ(1年次)

●個別最適な学び

学びの基礎を支えたり、学びを発展させたりするために、“指導の個別化”と“学習の個性化”の観点から有効であったことを以下のように整理した。

【指導の個別化】

把握した実態を基に、一人一人に合わせて学習内容と学習方法を個別化することで、子どもが学習活動に取り組む意欲を引き出すことができた。

*学習内容の個別化

- ①各教科等の実態調査表をもとに、
個々の実態(知技・思判表・主学)を把握

教科	指導事項	実態	指導事項	実態	指導事項	実態
国語	読者の立場から読み取る	読者の立場から読み取る	読者の立場から読み取る	読者の立場から読み取る	読者の立場から読み取る	読者の立場から読み取る
	登場人物の心情を読み取る	登場人物の心情を読み取る	登場人物の心情を読み取る	登場人物の心情を読み取る	登場人物の心情を読み取る	登場人物の心情を読み取る
	登場人物の行動を読み取る	登場人物の行動を読み取る	登場人物の行動を読み取る	登場人物の行動を読み取る	登場人物の行動を読み取る	登場人物の行動を読み取る
	登場人物の言葉を読み取る	登場人物の言葉を読み取る	登場人物の言葉を読み取る	登場人物の言葉を読み取る	登場人物の言葉を読み取る	登場人物の言葉を読み取る
算数	数と数との大小関係を読み取る	数と数との大小関係を読み取る	数と数との大小関係を読み取る	数と数との大小関係を読み取る	数と数との大小関係を読み取る	数と数との大小関係を読み取る
	数と数との和・差を読み取る	数と数との和・差を読み取る	数と数との和・差を読み取る	数と数との和・差を読み取る	数と数との和・差を読み取る	数と数との和・差を読み取る
	数と数との積・商を読み取る	数と数との積・商を読み取る	数と数との積・商を読み取る	数と数との積・商を読み取る	数と数との積・商を読み取る	数と数との積・商を読み取る
	数と数との割合を読み取る	数と数との割合を読み取る	数と数との割合を読み取る	数と数との割合を読み取る	数と数との割合を読み取る	数と数との割合を読み取る

到達度を○, △, 空欄で表記

※図1 実態調査表 (R1~3作成:本校HPに掲載有)

- ②実態から導いた指導事項(学習指導要領に準拠)から、
個々の指導内容を設定

これならできそうだ!



やってみよう!

*学習方法の個別化

- ①生活上の興味関心、認知や障害特性、
過去に有効だった支援等の把握



好きなもの・こと...

授業内外での姿の見取り

得意なやり方...



教師間での情報交換

- ②個々の教材教具・支援方法に反映

【学習の個性化】

学習する中で高まってきた興味関心に応じて、発展的な活動に取り組んだり、自己選択したりすることができる場面を設けることで、学習したことを生かそうとする姿を引き出すことができた。

活動の中で使う物や、やり方の選択肢を複数用意

→自分で扱える教材教具, ICT機器など

これでやりたい



学んだことを生かして取り組める発展した活動の設定

→子どもが「もっと~してみたい」と感じていることを見取り, 新しい活動を用意



意外性のある新しい刺激・般化場面の設定

→「これはどうだろう?」と感じ, 学んだことを生かして活動できる場面の設定



●協働的な学び

授業の中で、子どもが他者と関わり(直接・間接)ながら学んでいた姿をA～Eに分類した。また、それらの姿を引き出すために有効であった手立てを整理した。

1. 発達段階にとらわれず、豊かな関わりをする中で多様な考えが交わる学習集団を編成
2. 実態や活動内容に応じて、引き出したい子どもの姿をA～Eを参考に設定
3. 目標達成に向かう手段として協働的な学びが生まれるよう、環境構成、言葉掛け、教材教具等を工夫



互いに見合える環境



友達と試せる場



友達の様子を伝える
教師の言葉がけ



自分たちで判断できる
チェックシート等



共有できる教材

(※図2)

協働的な学びの姿とそのための手立て

A 学びに向かう

- ① 友達の様子が見える環境構成・言葉掛け
(友達が何をしているのか見える環境、様子を伝える言葉がけ)
- ② 全員が参加できる活動・テーマ設定
(みんなでやるからよりよいものになるという意味のある活動、役割、子どもが分かる目的・単元名・合言葉)
- ③ 友達の様子を見るための時間の確保
(何をするのが分かり、見通しをもてるような時間)

(みんなと)やってみよう!



B 新しい考えを知る

- ① 周りの様子が見える座席配置等の環境構成
(子どもの視線が周りに向く、活動の様子や作ったものを掲示など)
- ② 誰が見ても分かる教材教具や支援具
(写真やイラスト、色分け等で内容が一目で分かるもの、子どもが理解できる言葉で示すなど)
- ③ 活動を促す教師の言葉掛けや雰囲気作り
(「〇〇さんが～しているね」等の友達の活動を伝える、楽しみながら学べる雰囲気作り)

そうなんだ!!



学習集団の設定

多様な考えが交わる編成

【発達段階にとらわれず、豊かな関わりを期待できる編成】

C 自分の考えを確かめる

- ① 周りの様子を見に行くことができる環境構成
(自由に動ける環境設定、友達と試せる場)
- ② 教材教具や支援具の共有
(友達の教材教具や支援具をそのような量的な用意、離れた場所から見ても分かる大きさの教材教具や掲示物)

これでいいんだ!



D 今の考えを広げる

- ① 様々な方法で解決できる課題・活動の設定
(様々なやり方・考え方・道具で取り組める活動)
- ② 誰が見ても分かる教材教具、支援具
(実態差があっても貸し借りできる道具、色や数値、言葉など複数の示し方でみんなが分かるもの)
- ③ 友達の活動を伝える教師の言葉掛け
(「〇〇さんは～しているね」「〇〇さんはどうやったのか聞いて(見てみよう)」等、実態差があっても共通して使えるキーワード、知識・技能、思考・判断・表現にあわせた言葉掛けやその順序性、振り返り場面で考えの共有)

こういう方法もあるのか!!



E 考えをつなげ深める

- ① 課題(テーマ)を理解できるような支援具
(子どもが自分で判断できるよう判断基準を明確にしたチェック表など)
- ② 自分たちで活動を進められるような支援具
(めくり、手順表、進行表など)
- ③ 理解を深める教師の言葉掛け
(「〇〇さんはどうやったの?」など、子どもに問いかけながら周りにも伝える、振り返り場面で考えの共有)

こういうことか!!



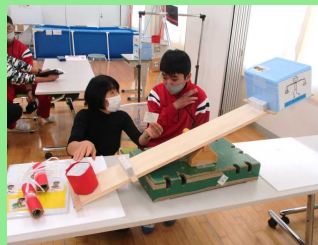
- 実践を通して、知的障害教育特別支援学校である本校として、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を以下のように捉え、授業づくりの際に大切にしている子どもの姿とした。

【個別最適な学び】

一人一人に合った学習内容に対して、児童生徒が意欲的に、やり方を自分で選びながら学ぶこと

【協働的な学び】

目的を共有しながら活動し、他者の様子を見聞きして真似する、一緒にやってみる、話し合うなど、人と関わりながら学ぶこと



IV 2年次の取組と授業実践からの考察

◆知的特別支援学校における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実のための視点を通して(2年次)

- 実際の授業の中での子どもの姿を、個々の学びと他者との学びの視点で振り返り、単元(題材)を通して、子どもがどのように変容したのかを捉え、どのような活動や支援が有効であったのかを整理した。

【実践例:「どんなおと? きいて かんじて あらわそう」音楽科/身体表現 全10回】

学習集団:小学部4~6年生 9名

主活動:様々な楽器の音を聴き、音色や強弱に合わせて身体を動かす



Aさんの本題材の目標:

音色や強弱の違いを感じ、教師や友達と一緒に楽しみながら、腕や体を動かす大きさや方向を変え、音の変化を表すことができる。

活動や支援の工夫 《個々の学びに関連する内容》	Aさんの姿	活動や支援の工夫 《他者との学びに関連する内容》
<ul style="list-style-type: none"> ● 大きな変化の方が捉えやすいAさんが、音色やリズムの違いに気付くことができるよう、楽器を鳴らす速度や強弱にはっきりとした変化をつける ● 自信をもって表現できるよう、Aさんが気に入っている音色やリズムを取り入れた活動の繰り返し 	友達や教師と一緒に、音を聴いて動くことを楽しんでいた (6月9日)	<ul style="list-style-type: none"> ● 互いの動きを見合える座席配置にする
	聴いた音に合わせてジャンプしていた (6月18日)	
	友達の様子を見て、しゃがむ、寝転ぶなどの表現を真似するようになった (6月18日)	
	音の変化に合わせて、自分からジャンプしたり走ったりするなど、動きを変えるようになった (6月20日)	
	友達と向かい合い、音に合わせて「せーの」と言いながら様々な動きをしたのしむようになった (6月23日)	

個別最適な学び と 協働的な学び の視点から整理すると・・・



個別最適な学びと協働的な学びの視点を通じた、活動・環境・支援の工夫があったことで、Aさんの学びは徐々に広がり、深まりながら目標の達成に向かっていった。

- 学習したことが断片的になりやすい知的障害のある児童生徒にとって、個々でじっくりと学ぶことと友達や教師と関わりながら学ぶことが資質・能力の育成に有効であることが明らかになった。

- 授業で見られたの子ども姿と、教師が行った工夫をもとに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」についての具体的な姿と、それぞれの学びを支えるためのポイントを以下のように整理した。(※図3)

じっくり学ぶ姿 (活動・教材・支援具を通して…)	他者と関わって学ぶ姿 (教師や友達との関わりを通して…)
<p>考えを広げる 「もっと～したい」 「みんなとも～したい」</p> <p>考えを深める 「こういうことか」</p> <p>考えを用いる・試す 「やってみよう」</p> <p>考え方が分かる 「わかった」</p> <p>考え方を知る 「そうなんだ」「できた」</p> <p>学びに向かう 「おもしろそう」</p>	<p>考えをつなげ 深める 「こういうことか」</p> <p>今ある考えを広げる 「こういう方法もあるのか」</p> <p>自分の考えを確かめる 「これでいいんだ」</p> <p>新しい考えを知る 「そうなんだ」</p> <p>学びに向かう 「(みんなと)やってみよう」</p>

※表2と関連

個別最適な学びを支える

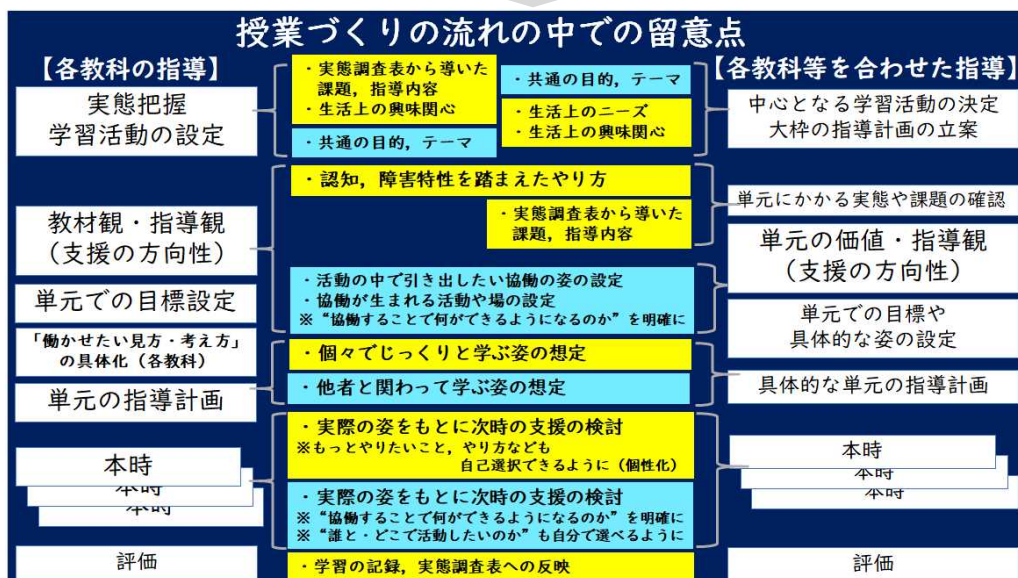
協働的な学びを支える

- a 認知・障害特性に合わせたやり方
- b 生活上のニーズの把握
- c 生活上の興味関心の把握
- d 過去に経験した活動や有効だった支援の活用
- e 定着を図るため、活動の繰り返し
- f 一般化を図るため、意外性のある新しい刺激
- g 子どもが自己選択できる場面設定
- h 学習する中で子どもがもっと学びたいと思っている内容

- a 他者と目的を共有しながら一緒に取り組める活動や雰囲気
- b 互いの様子を見合える環境構成
- c 誰が見ても、遠くから見ても分かる教材教具
- d 貸し借りしたり、自分たちで確かめ合ったりできる教材
- e 他者の様子を伝え、つなぐ言葉がけや振り返り方法
- f 目的に合ったペア、グループ、協働のタイミング
- g 誰と、どこで活動するのか子どもが自分で選べる工夫

学びを支えるためのポイント

本校の各教科の指導と、各教科等を合わせた指導の授業づくりの流れに、上記のポイントと留意すべきことを取り入れて整理



※各教科の指導、各教科等を合わせた指導の授業づくりの流れ(左図白枠)は令和1～3年度実践研究及び、本校学習指導案書式項立てに基づく

- 上記のような整理や授業実践を通して明らかになったこと
授業の内容や学習集団によって違いはあるが、まずはじめに、指導の個別化の視点をもとに、児童生徒の実態を多面的に捉え、認知・障害特性に応じて、一人一人が何をどのように学ぶのかを明確にする必要があることが分かった。また、単元を進める中で、協働場面や自己選択・発展場面を次第に増やしていくことで、「みんなとも、もっと～してみたい」のように主体性を高めることに繋がるのが明らかになった。

V 実際の授業での実践例

- 個別最適な学びと協働的な学びのポイント(※図3)をもとに、振り返りシート(※図4)を作成した。単元を構想し、実際に授業が始まってからは、振り返りシートに児童生徒の姿を日々記録し、学びを繋げていくために必要な手立てを、個別最適な学びと協働的な学びの視点から検討した。

【記録方法】

- ① 児童生徒の単元の目標を記入
- ② 日々の授業の中での児童生徒の姿を以下の観点から記録

児童生徒一人一人の、

・発言、動き、表情、できたこと、難しかったこと…等

・関わった相手、関わりの中でできたこと…等

- ③ 個別最適な学びと協働的な学びのポイントを参考に、次時の具体的な支援方針を記入、実践。
- ④ 上記②③を単元を通して継続
- ⑤ 単元を通してできるようになったことを記入(評価)

単元の目標

本時の姿

次時の支援方針

評価

↑ 振り返りシート(※図4) ↑

個別最適な学びと協働的な学びのポイント(※図3)

【実践例：「お客様が満足するカフェスマイルにしよう」 高等部 作業学習 / 喫茶サービス班 全10時】

Cさんの単元の目標:お客様に対してより好ましい態度を考えて、相手を見ながら接客をしたり、仲間の状況を見て協力の依頼をしたりすることができる。

- 開店・閉店準備の際にすべき仕事をホワイトボードに掲示 個別-d
- その場で分担を考えて友達に伝えながら閉店の片付けができた (第9時)
- 僕は机拭きをします。Dさんはコップの片付けをお願いします
- お客様の顔を見ながら注文を聞き取ることができた (第8時)
- お客様からのアンケートや、ミーティングで決めた改善案を一覧掲示 協働-c
- ミーティングで自分たちの接客について、課題や改善点を友達と相談 協働-e
- 立ち位置の目印を床に表示 個別-a
- お客様の方に体を向けながら飲み物の提供ができた (第5時)
- お客様の方を向いて接客する様子を見る 協働-b, f
- 接客の際、顔や体の向きに課題が見られた (第2時)

●: 個別最適な学びの視点を取り入れた支援
 ●: 協働的な学びの視点を取り入れた支援
 ※3のポイントを参考

VI 研究の成果と今後の課題

教師が、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両視点をもとに、意図的に活動を設定し、支援を工夫することで、子どもは最適な状況下で「できる」を積み重ねながら目標達成に向かっていくことができた。また、両視点から子どもの姿を捉えることで、「子どもが今日何を学んだのか」や、「次に学ぶべきこと(課題)は何か」を把握し、次時の授業改善に繋げることができた。今後は、子どもが課題解決の方法を自分で考えたり、目的に向かって試行錯誤したりすることができるよう、支援のあり方や評価の方法を検討していく必要がある。

提案授業者: 横堀 荘子, 元井 優気, 関口 紘樹, 山田 茅穂, 金子 芽衣, 吉田 恵理, 林 和泉, 島田 大樹, 小泉 龍之介, 小越 薫子
 校内部主事: 堀込 直道, 草畑 和江, 小島 靖弘, 平岩 賢

研究主任: 小島 靖弘 (R4), 金子 芽衣 (R5)

◆ 文責: 金子